

第8次中期経営計画

2023-2025

令和5年度の取り組み状況について



みやぎ仙南農業協同組合

第8次中期経営計画の位置づけ

—基本理念を踏まえたビジョン2025—

【ビジョン2025】

J Aみやぎ仙南は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を通じて基本理念の実現に向け挑戦し続けます。

ビジョン2025について

J Aみやぎ仙南には、【「食」と「農」を未来につなぎ、豊かなくらしと心を育み、夢と笑顔の溢れる地域づくりに貢献します。】という基本理念があり、この理念を実現していくために組織の運営を行っています。この基本理念を達成するための展望として、【ビジョン2025】を掲げ、組合員・地域に必要とされる組織となるべく、事業に取り組んでまいります。

—計画策定趣旨—

第8次中期経営計画の方向性

J Aみやぎ仙南としての基本理念を果たすため、3年後の目指すべき姿をビジョン2025として設定しています。第8次中期経営計画はビジョン2025を達成するための経営戦略として位置付けており、社会経済、農業・農政、J A経営をめぐる情勢等を踏まえ策定しています。

—計画策定にあたり—

当組合の従来の中期経営計画では、基本方針、基本目標、重点実施項目、具体的な実施項目という構成で計画を策定していました。第8次中期経営計画では、4つのプランと実践項目という構成で計画の策定を行っています。また、各支店によるくらしの活動を行うことで、より地域に根差したJ Aとしての役割を發揮していきます。

計画の策定にあたっては第七次中期経営計画と同様、「J Aグループ宮城SDGs取組宣言」に基づき、J Aの事業や活動をSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標に結び付けて整理し、持続可能な社会の実現に向け積極的に貢献していきます。

—4つのプランと実践項目—

当J Aの経営計画を農業振興プラン・地域活性化プラン・経営強化プラン・組織強化プランの4つに分類し、より実践的な内容として取り組んでまいります。



SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称であり、2015年の国連サミットで採択されたものであり、「誰一人取り残さない」という基本理念のもと2030年までに持続可能な社会の達成に向けて取り組むものです。

令和5年度の取り組み状況について

I. 農業振興プラン

「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」に向け、農業と食の大切さを追求し、農業者と共に地域の農業振興に貢献するためのプラン。



取り組み結果

①地区営農ビジョンの策定と実践による地域農業の振興

行政と連携し各地区事業本部の特色を活かした地域営農ビジョンを策定し、実践しました。一例として、村田地区では、町の特産物である「ソラマメ」の生産拡大を目的に町内の農業法人等へ呼びかけ、行政と連携し新たに作付面積を増やすことができました。(3法人:32a)



②地域農業の多様な担い手の確保・育成・支援

農業経営管理支援事業では、年間記帳代行業務を実施しており、担い手を中心に55経営体について経営管理のサポートを行いました。

担い手経営体への個別訪問では、訪問内容の充実化を図り、補助事業のフォロー推進として2,080件、融資相談や資金提案活動として2,434件訪問させていただきました。

経営体の課題解決の促進や法人間ネットワークの構築・情報共有を目的として、令和5年12月にJAみやぎ仙南農業法人会研修会を開催し、管内の農業法人24団体(40名)にご参加いただきました。



JAみやぎ仙南農業法人会研修会

令和5年度の取り組み状況について

取り組み結果

③マーケットインに基づく農畜産物の生産振興

JA管内に適した栽培方法と生産条件を加味した栽培マニュアルを作成し、こだわり米（1,236ha）や、ふるさと米（745ha）の生産に取り組みました。水田を主食用米の生産以外に活用する目的で戦略作物に位置づけた「飼料用米」への作付け誘導を行いました。（作付面積610ha）。

園芸振興作物では、生産販売マッチングに取り組み、玉ねぎや梨等の作付面積が増反につながり、玉ねぎは0.8ha、梨は0.7ha増反することができました。

JA管内の仙台牛ブランド確立では、優良肥育素牛導入推進や、管理技術向上に向け共進会及び勉強会を開催し仙台牛格付率の向上に取り組みました。全農及び畜産協会（畜産クラスター事業含む）事業の活用によって優良繁殖雌牛の導入を実施し、斉一性及び特色ある繁殖雌牛群の造成と生産基盤の拡充を図りました。



④トータルコスト低減による農業所得の確保

農薬価格の上昇は農業所得の確保に大きな影響を与えましたが、新たにE-SHOPを開設し、大型規格農薬に関するWeb注文書の取り扱いを開始しました。このことにより、大型規格農薬の活用によるトータルコストの低減を広くPRできました。

農機事業では、各種農機具の故障等による修理費用を未然に防ぐために、田植機とコンバインの点検整備を行いました。

フレコンを無償とし、米倉庫への自己引き取りをお願いしました。このことにより、生産者の経費削減に繋がりました。

令和5年産米の実績については、9,844tとなりました（主食米 6,304t、備蓄米 633t、加工米 57t、飼料米 2,850t）。



⑤めぐみ野の取り組み拡充による産消提携活動の推進

産消提携活動については、酷暑による鶏卵高相場への対応を強化する、養豚ビジネスモデルの構築を行うなどの取り組みを行いました。この結果、みやぎ生協のめぐみ野商品取扱総額は1,513百万円（園芸・米穀・鶏卵・養豚・納豆・梅干・加工）となり、生産者と消費者の食に対する思いを結ぶことで幸せを分かち合う「産消直結」に貢献しました。



令和5年度の取り組み状況について

Ⅱ. 地域活性化プラン

「地域の活性化」に向け組合員と地域の皆様の多様なニーズに応え、当JAらしいサービスを展開していくためのプラン。

地域の課題解決や持続可能な社会の実現に貢献します。



取り組み結果

①組合員と地域のニーズに応える総合事業の展開

信用事業では、金融渉外担当者を中心に、ライフプランサポートによる金融サービスのご案内とアフターフォローに取り組みました。また、資産形成セミナーや、JAスマホ教室を開催し、組合員・利用者のニーズに合った金融商品等をご案内しました。

共済事業では、3Q活動を中心に、組合員・利用者に寄り添った「安心」と「満足」の提供に向け、積極的な活動に取り組みました。また、TAC課と連携し、農業法人に対して共済商品のご提案や「農業リスク」に対する研修会を実施しました。このほか、JA共済少年野球大会・JA共済アンパンマンショー、地域貢献活動により地域住民と次世代層との「つながり」強化に繋げることができました。



JA共済少年野球大会



スマホ教室(槻木支店)

介護事業では、健康イベントを年間8回開催し、延べ210名の方にご参加いただきました。また、福祉用具では地域のケアマネジャー及び包括支援センターと連携し、新しく74名の方にご利用いただきました。

葬祭事業では、家族葬・小規模葬プランに対するオプションをご用意し、多くの方にご利用いただきました(前年比103%)。各種イベントにご参加いただいた際、アンケートにご協力いただき、特に関心の高かった「ペット葬」について人形供養祭にて葬儀用品の展示を行いました。

自動車事業では、自動車メンテナンスパックを令和5年10月より新たに販売を開始し、令和6年3月末時点で車両購入者の約3割の方にご契約いただきました。



健康イベントの様子

令和5年度の取り組み状況について

取り組み結果

②地域の特性を活かした地域活性化活動の展開

農業体験(さつまいも・大根等)、女性大学(陶器づくり・DIYコンポスト・おにぎりドック等)、熱中症対策アンバサダー講座、防災・SDGs出張講座等、地域組織と連携した多種多様なイベントを実施させていただきました。また、支店協同活動として農業体験や夏祭り、親子イベント等を開催し、支店が地域の拠点や一員となるような活動を行うことができました。



女性大学(おにぎりドック)



農業体験(さつまいも)



夏祭りの様子(川崎地区)



防災出張講座の様子
(角田地区)



Ⅲ. 経営強化プラン

当JAらしいサービスを提供するために、総合事業体として経営を維持するためのプラン。収支改善やコンプライアンス経営の実践等により経営の強化と安定化を図ります。



取り組み結果

①将来見通しを踏まえた経営計画の策定・見直し

令和5年度版経営シミュレーションをふまえた実績管理を実施しました。全役職員向けに経営シミュレーションや事業計画に関する研修会等を開催し、当JAの経営に関する将来見通しの情報共有を行いました。



全職員研修会

②不祥事未然防止対策、内部統制の強化による経営の健全性の確保

当JAの事務ミスの傾向に合ったコンプライアンス・プログラムを策定し取り組みました。経営の健全性の確保に向け、年間計画に基づく内部監査に取り組みました。

不祥事未然防止に向けた様々な取り組みを実施しましたが、残念ながら不祥事件を発生させてしまいました。一刻も早い信頼回復に向け、再発防止策を講じるとともに内部統制の強化を行います。

令和5年度の取り組み状況について

取り組み結果

③激しい環境変化へ適応できる経営体制整備

デジタル化の普及に伴い、紙ベースの掲示物を廃止し、金利情報・キャンペーン情報・金融機関としての掲示物等について、組合員・利用者へご案内するデジタルサイネージ(電子看板)を全支店へ設置しました。さらに、インスタグラム及びフェイスブックへ投稿回数を重ね、SNSによる広報活動を強化しました。また、コミュニティ新聞を新聞折り込みにて地域に配布するなど、様々な媒体で幅広く情報提供を行いました。



JA みやぎ仙南の活動・イベントをアップしています!

Check!

IV. 組織強化プラン

組合員の加入促進や意識醸成、関係性の強化に取り組むとともに、組合員の声を運営に反映させていくためのプラン。また、地域や当JAの魅力を発信することや業務改善を行うことで当JAの価値を高め、組織力を向上させていきます。



取り組み結果

①JAへの理解促進とメンバーシップの強化

准組合員の意思反映と事業参画に向け、組合員加入時の際、アンケートにご協力いただきました。また、自己改革工程表にも掲げているように、組合員組織等での協議内容、各事業での訪問活動の際に、皆様からのご意見等を事業運営に反映させていただいております。令和6年度の実施に向け、事業性評価調査について、要領等の整備を進めました。



②協同組合活動・事業活動を担う人材育成と確保

組織力の向上に向け、人材育成基本方針の更なる見直しが必要となりました。専門人材の育成に向け、JAバンク及びJA共済の育成計画に取り組みました。